

2021年9月17日

2022年度 東邦大学 理学部 **総合入試（専願制）**

生命圏環境科学科 二次選考（面接試験）における  
グループ等でのディスカッションに関する事前課題資料

「SDGsの取り組みを進めるための提案」

生命圏環境科学科の総合入試（専願制）二次選考（面接試験）におけるグループ等でのディスカッションでは、与えられた課題について、手元の情報や資料に基づいて自分の考え・グループの考えをまとめる試験を行います。この事前課題資料では、

- A. 試験に備えて、調べてきてほしい課題、および参考資料
- B. 自分の考えをまとめる上でのヒント

を説明します。特に A.に関しては、調べてきた内容に基づいて当日の試験を行いますので、きちんと学習してきてください。

※なお、当日は、距離の確保やマスクの着用、手指消毒、換気、デジタルツールの利用などで十分な感染対策を行います。

## A. 試験に備えて、調べてきてほしい課題、および参考資料

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継となっています。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。ゴールを達成するためには、具体的なアクションが必要となり、全国各地で様々な取り組みが行われています。皆さんは、SDGsの具体的な取り組みに関してどのようなアイデアを持っていますか？今回の総合入試（専願制）では、以下の6つのゴールの中から一つ選んでいただいた上で、それ以外（16ゴール）のいずれかのゴールの達成にも貢献できるようなプロジェクトを提案していただきます。

- |                     |                          |
|---------------------|--------------------------|
| 「6. 安全な水とトイレを世界中に」  | 「7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」 |
| 「11. 住み続けられるまちづくりを」 | 「13. 気候変動に具体的な対策を」       |
| 「14. 海の豊かさを守ろう」     | 「15. 陸の豊かさを守ろう」          |

このプロジェクトに取り組む主体は高校生であるあなた自身と友人で、既存の企業と共同で取り組むプロジェクトについて考えてみてください。また、そのプロジェクトの実現可能性、プロジェクトが社会や自然に対してどのような影響を及ぼすのか、また、一緒に取り組む友人や企業に対してどのようなメリットがあるのか、についても考えてみてください。

上記の問いに答えられるような準備をしていただきたいと思います。下記の資料を元に考えてみてください。また、下記の資料は生命圏環境科学科の総合入試（専願制）に参加する皆さんが共通して調べますので、皆さん独自に他の資料も参考にすることをお勧めします。

### 《参考となる基本的な資料》

・SDGsとは？ | JAPAN SDGs Action Platform | 外務省

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

・SDGs 総研ホームページ

<https://www-v2.sdg-s.jp/>

### 《参考になるキーワード》

SDGs, 事業提案, ビジネス, ESG 投資, 持続可能な発展, 課題解決型学習, 協働

## B. 自分の考えをまとめる上でのヒント：ポイントと方法

ここでは、考えをまとめるうえで気をつける基本的なポイントについていくつかまとめます。また、アイデアを思いついたり、考えを整理したりする方法（思考法・思考ツール）にはいろいろありますが、ここでは、総合入試（専願制）二次選考の準備として、いくつかを紹介いたします。

### ■ 考えをまとめるうえでのポイント

- ・ 根拠やその信憑性を検討する。定量的なデータを根拠とする。  
考えを述べる際には、その根拠を示すことが基本中の基本です。これは、ニュースなどから得られる情報の信頼性の高さを評価するうえでも大事な考え方です。例えば「●●で言っていたから」でまるごと信じてしまうのではなく、その情報は何を根拠にしているのか、その根拠は信頼できるか、などを掘り下げることが重要です。その際、定量的なデータを根拠とすると説得力が増します。自分の意見をまとめる際や、他のひとの意見を評価する際には是非気をつけてください。
- ・ 事実と仮説（事実以外）を明確に区別する。  
たとえば、「AとBが成り立つとすると、Cがいえる」というように結論づけたとします。このとき、A、Bの両方が事実（正しい）である場合、Cは事実（正しい）となりますが、どちらかがそうでない（仮説・仮定の）場合は、条件付きで事実である（正しい）といえます。このように、事実と、そうでないことを明確に区別しないと、それらを根拠に筋道立てて説明したとしても、その結論が正しいのか正しくないのかが不明確になってしまいます。どこまでが事実で、どこまでが仮説か、ということを常に意識することを心がけましょう。
- ・ 因果関係（原因と結果の関係）を明確にする。  
例えば、AとBの間になんらかの関係がある場合、それを根拠にしてBの原因がAである、とは必ずしもいえないことに注意しましょう。例えば、A：大気中の二酸化炭素量の年変化と、B：地球表面の平均気温の年変化に相関関係があったとします。このことから、「大気中の二酸化炭素が増加したことによって、地球表面の気温は増加している」と、単純に結論づけることはできません。  
この場合、「Aが原因でBが結果」以外に考えられることとしては、1) Bが原因でAが結果、2) AとBの共通の原因Cが存在する、3) AとBに関係があるようにみえるのはまったくの偶然、といったことが挙げられます。

- ・ 曖昧な言葉，感情的な言葉，定性的な表現を避ける。

自分の考えを表現する際の言葉使いに気をつける習慣をつけましょう。たとえば、「美しい」，「素晴らしい」といったような感情的・主観的な表現は，科学的に物事を考える上ではあまりふさわしくありません（議論する対象によっては適切である場合もあると思います）。また，「とても大きい」というような曖昧な表現も，客観的・定量的に評価することができないので，なるべく避けるべきです。今回の実習で扱うような“答えの無い課題”にアプローチする際はどうしても定性的な評価をせざるをえない場合もあると思いますが，できるかぎり定量的な表現をすることを心がけましょう。